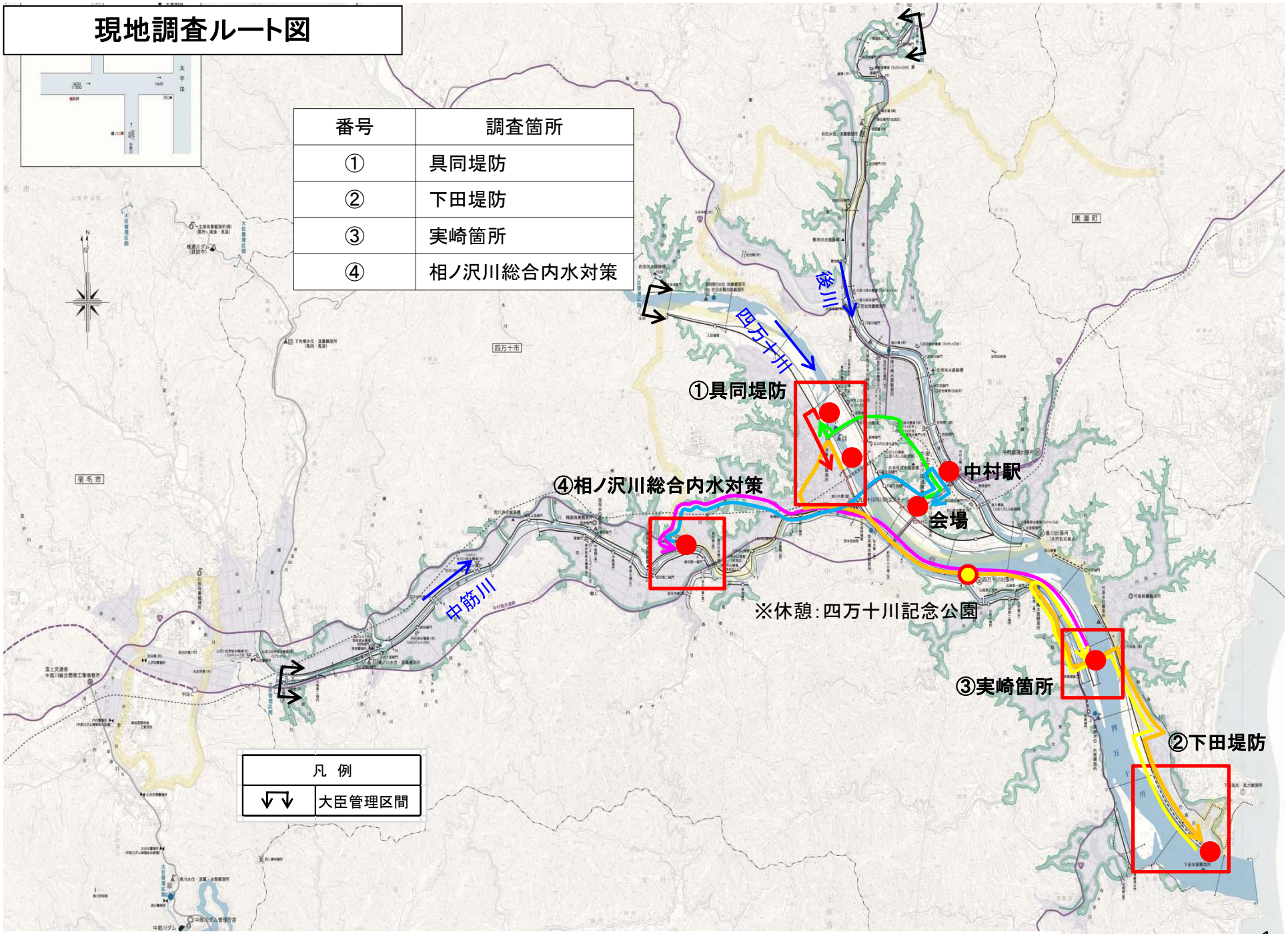
第6回 渡川流域学識者会議

現地調査資料

平成29年3月23日

現地調査ルート図

番号	調査箇所
①	具同堤防
②	下田堤防
③	実崎箇所
④	相ノ沢川総合内水対策



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を複製したもの（承認番号　平25情複、第247号）を一部転載したものである。」

① 具同堤防

治水面における現状と課題

○具同地区は、四万十川右岸8k/600から10k/000の暫定堤防区間であり、堤防の断面が不足。
○また、近年では平成17年台風14号により堤脚漏水が発生するなど、浸透対策が必要。
○背後地は住宅など資産が集中しており、近年は大型商業施設が建設されるなど市街化が進行。

河川環境における現状と課題

○高水敷は公園・グラウンドとして利用。
○水際にミゾコウジュ（環NT、県NT）が確認されているが、施工範囲対象外であり、環境上特に問題はない。

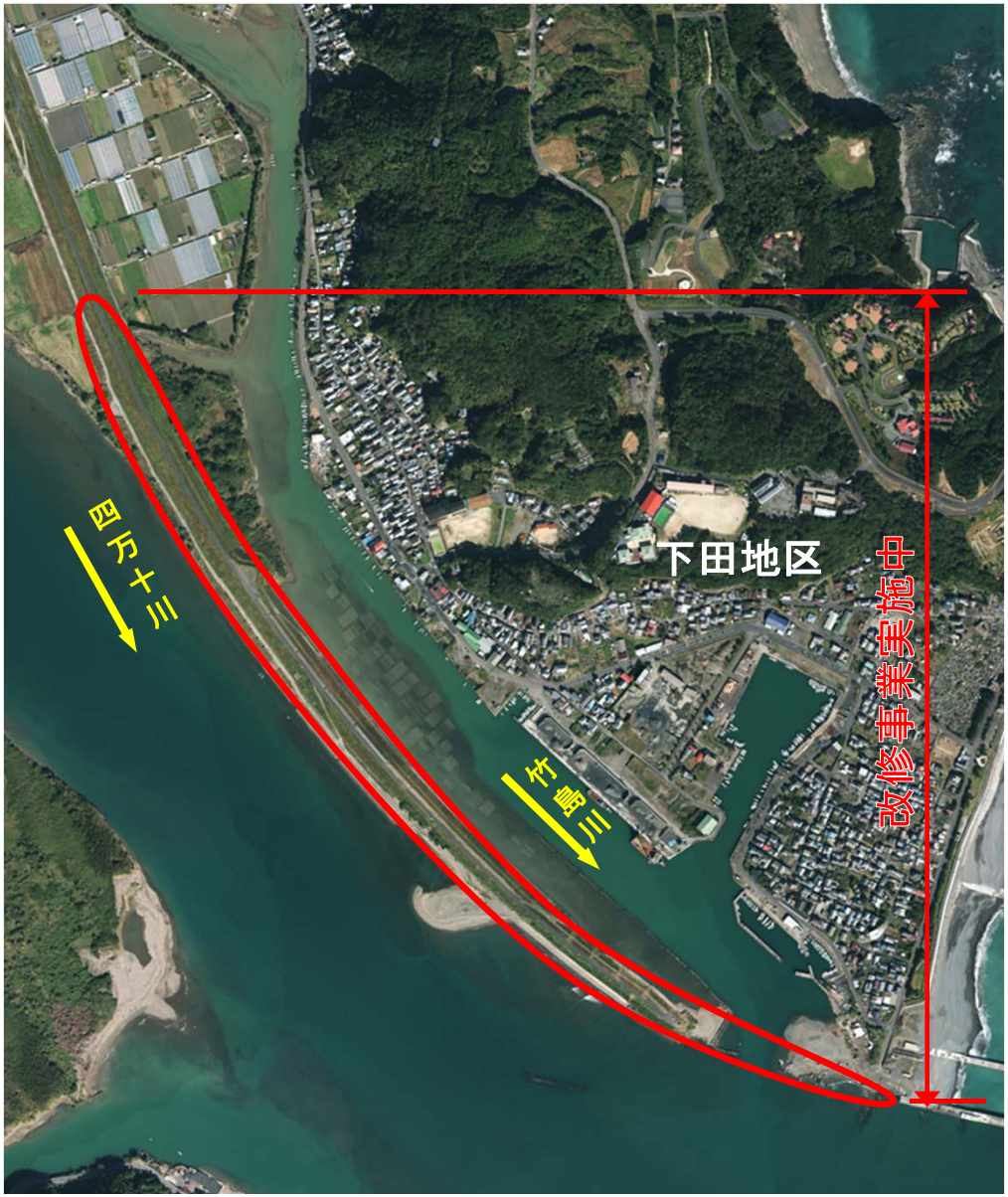
② 下田堤防

治水面における現状と課題

○下田地区は、四万十川左岸0k/000から2k/000の高潮堤防区間。
○0k/400より下流は無堤部、0k/400より上流は、暫定堤防区間。
○四万十川河口砂州の背水並びに波浪の影響による浸水被害を被っており、近年では平成16年、平成17年、平成19年の台風により浸水被害が発生しており早期の整備完了が必要。
○また、今後30年に70%程度の確率で発生すると予想される南海トラフ地震による津波遡上範囲に位置しており、津波被害軽減対策としても早期の整備完了が必要。

河川環境における現状と課題

○水域ではアカメ（環EN、県CR）、カワヨウジ（県EN）など汽水・海水魚が多く見られ、アカメの成魚生息場・鳥類の集団生息場として利用。
○干潟や浅場は、魚のゆりかごとなるコアマモ場やスジアオノリが生育する環境。
○ナガミノオニシバ等の重要種の生息・生育地の直接改変または間接的な影響や、工事中の濁り等によるアカメを含む魚類等への配慮が必要。



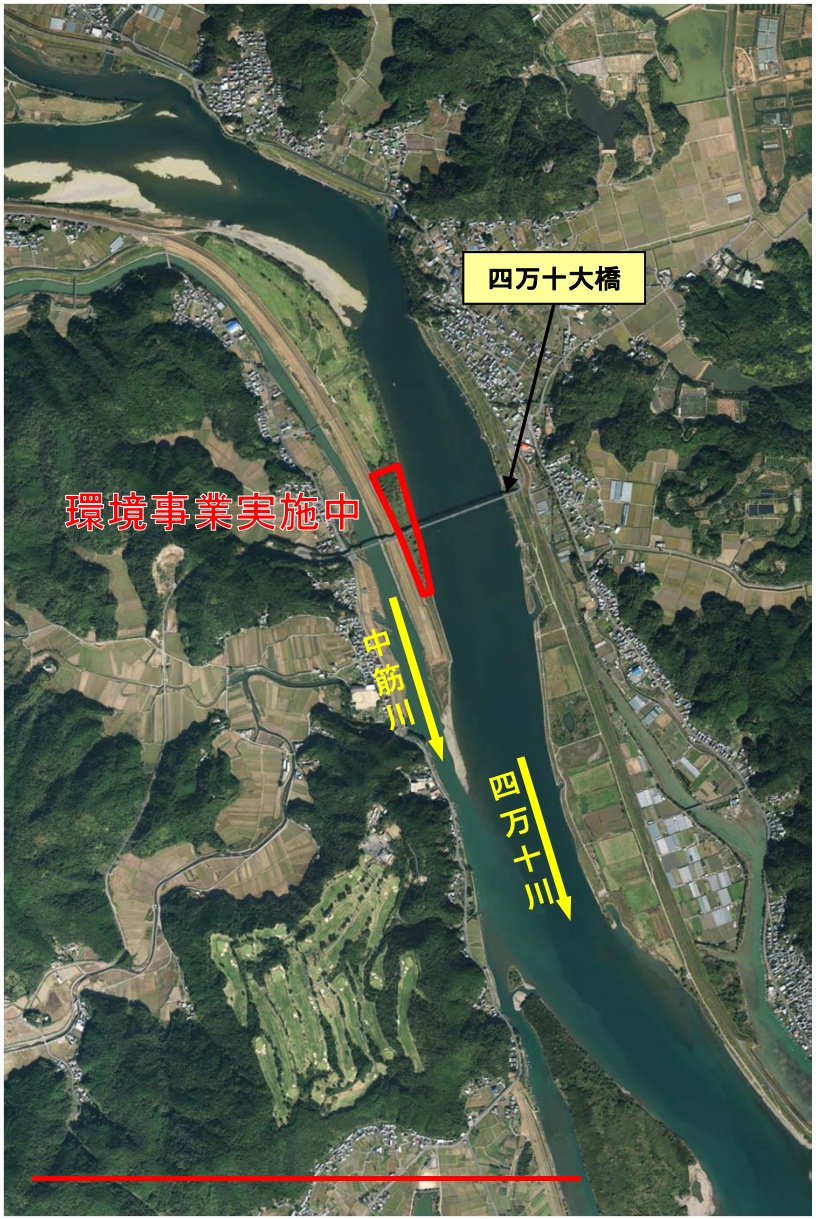
③ 実崎箇所

河川環境における現状と課題

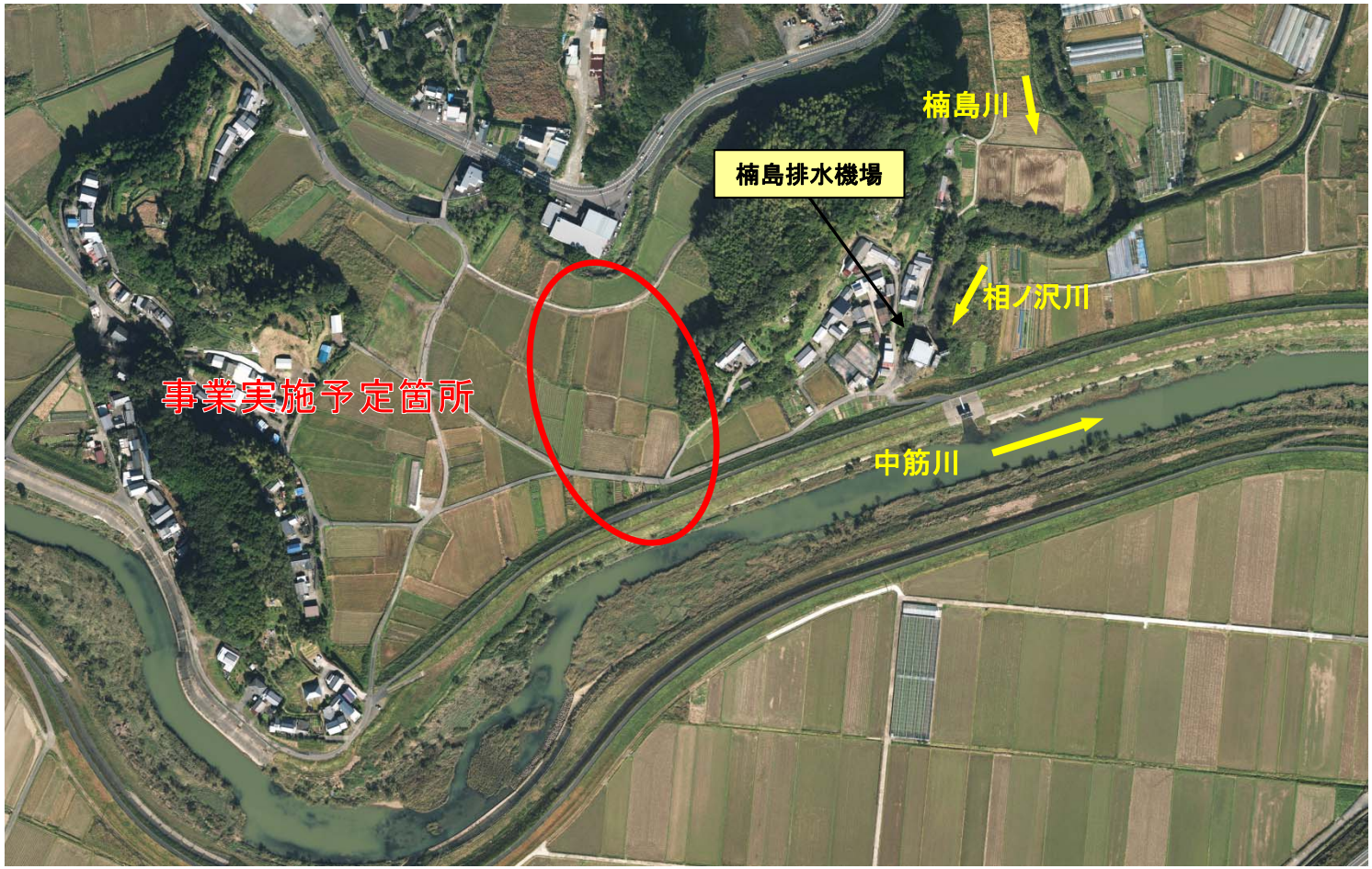
○四万十川下流域の汽水域の砂礫底にはスジアオノリが生育し、砂泥底にはアカメ等の仔稚魚の成育場として重要なコアマモが生育するなど良好な河川環境が形成。
○近年スジアオノリの収穫量やコアマモ場が減少。
○多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の維持・保全が必要。
○当該箇所では、コアマモ場の再生事業を実施中。

治水面における現状と課題

○当該区間は、河川整備計画の目標流量に対する流下能力を有するものの、高水敷上のタケを主とした樹木繁茂域は、上流区間（井沢、角崎地区など）の水位上昇を引き起こす可能性があり、留意が必要。



④ 相ノ沢川総合内水対策

治水面における現状と課題

〇平成26年6月の梅雨前線により、具同・楠島地区では、相ノ沢川及び楠島川沿川で深刻な家屋浸水被害が発生。
〇浸水被害の分析や対策について検討するため、平成27年6月に国土交通省・高知県・四万十市による「相ノ沢川総合内水対策協議会」を設置し、平成28年8月に「相ノ沢川総合内水対策計画」を策定。
〇ハード・ソフト対策が一体となった総合的な内水対策を実施。